

四国遍路の世界遺産化にむけて

Research Center for the Shikoku Henro
and Pilgrimages of the World

Faculty of Law and Letters

四国遍路・世界の巡礼研究センター長

愛媛大学法文学部

教授 胡 光

EBESU Hikaru



EHIME UNIVERSITY

日本の巡礼

「参詣」

伊勢参り、金毘羅参り、善光寺詣

日本型「巡礼」

西国巡礼、四国遍路

1か所に参る、詣でる

複数の聖地を巡る

参詣



金刀比羅山之図



四国徧路図

はじめに 江戸時代は旅の時代



江戸時代：慶長8年(1603)～
慶応4年(1868)：266年間
「太平」「徳川の平和」

歌川広重「東海道風景図会」
嘉永4年(1849)：

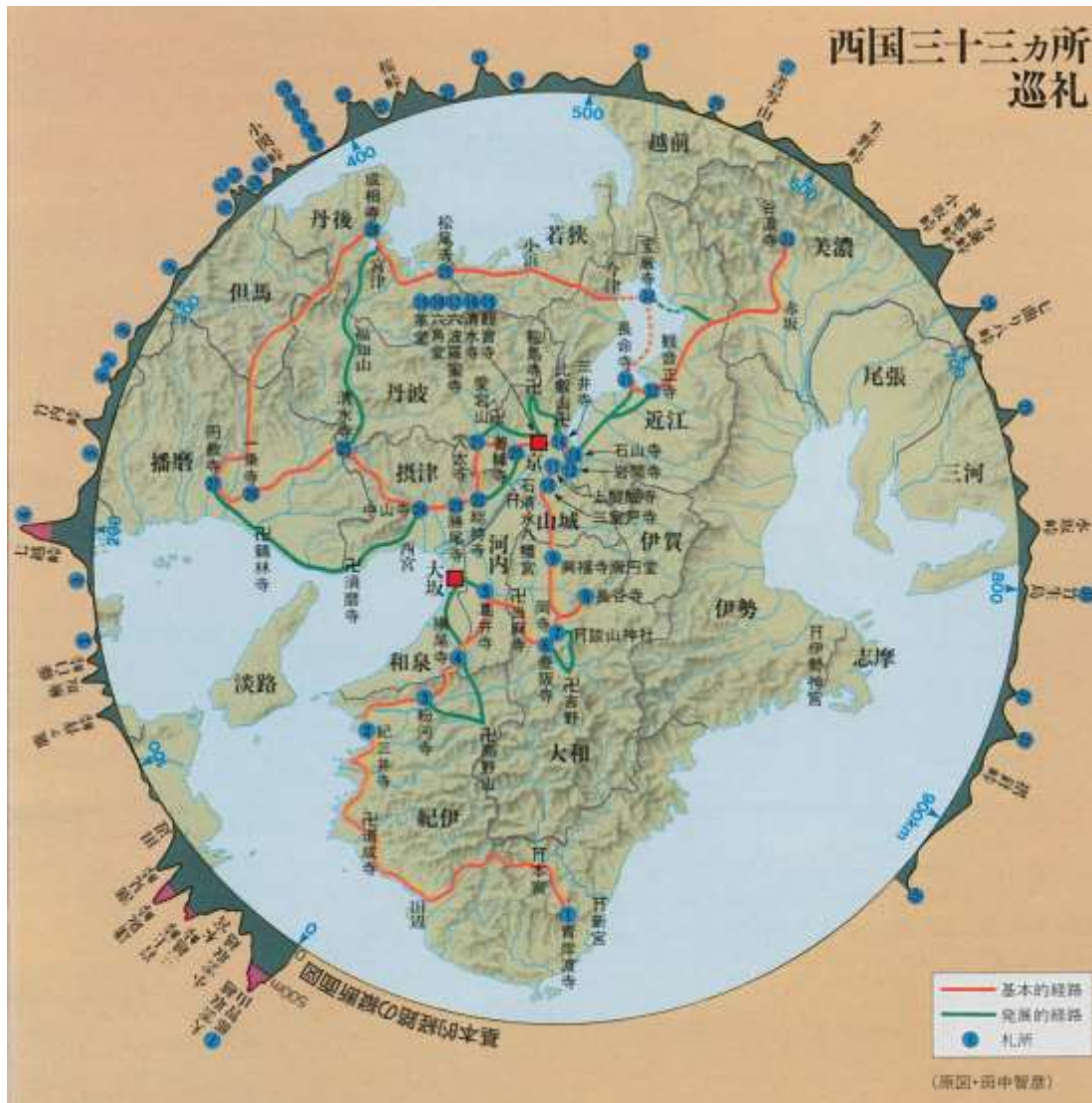
cf: 時世歌「東路に筆を残して旅の空 西の御国の名ところを見ん」

遊山たび、かへり馬、ごぜ、六部、金ひら参、ぬけ参り、巡礼、三宝くわうじん、売薬、田舎いしや
(周囲)宿かご、宿引、ごまのはひ、おじゃれ

モース『日本その日その日』：毎日、町を行く手品師か、音楽師か、行商人か、軽業師の、何かしら出現する

松尾芭蕉：寛永21年・正保元年(1644)～元禄7年(1694)：3代将軍家光～5代将軍綱吉代

巡礼の誕生—西国巡礼



回遊型巡礼
本尊巡礼
観音信仰流行
平安時代末(12世紀後半)成立



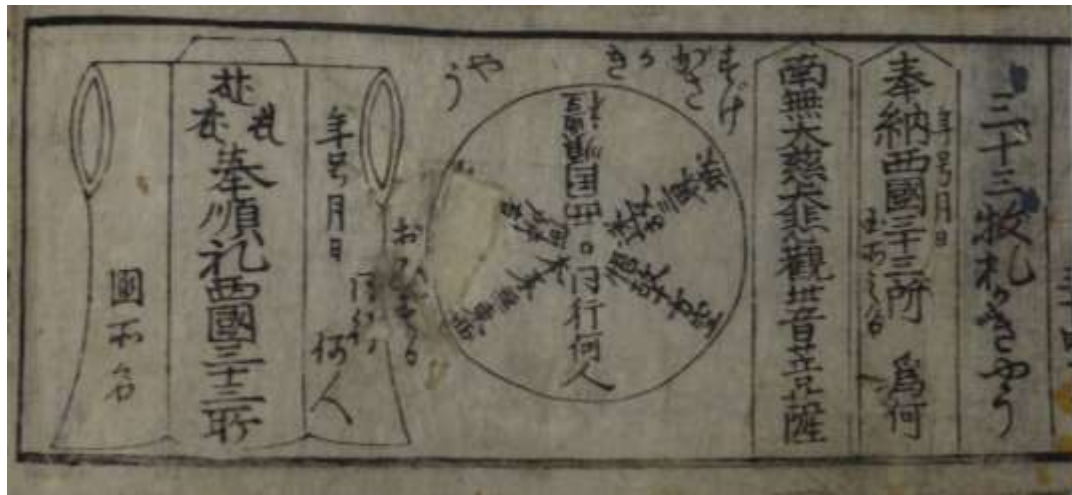
千手観音菩薩

『週刊朝日百科日本の歴史75』(朝日新聞社、1987年)

向吉悠睦・中村佳睦『やさしくわかる仏像入門』(ナツメ社、2007年)

巡礼の誕生—西国巡礼

【資料4】「佛名院所司目安案」(醍醐寺文書)鎌倉時代 弘安3年頃(1280)
一、不住院主坊事者、修験之習い、両山斗藪、滝山千日、坐巖窟冬籠、四国辺路、三十三所、諸国巡礼遂其芸、



『西国順礼手引案内』江戸時代 宝暦6年(1756)



1番札所 青岸渡寺



14番札所 園城寺



13番札所 石山寺



11番札所 醍醐寺

四国遍路の原型



Mt. Ishizuchisan



善通寺
Zentuji temple (No75)

The birth place of KUKAI in 774

太龍寺
Tairyuji temple (No21)

The place for religious training of KUKAI



室戸岬
Muroto Cape



【資料1】空海『三教指帰』

日本古典文学大系

18歳で大学に学び、勤勉した。一人の修行僧に虚空蔵求聞持法を教わり、阿波の大瀧嶽(現21番札所太龍寺)に登り、土佐の室戸崎で修行した。修行の成果があり、明星(虚空蔵菩薩)が姿を現した。さらに、石峯(石鎚山)にまたがって断食して苦勞した。



太龍寺 (No21)

辺地修行 → 都から南西(浄土) 四国の山海

資料2『今昔物語集』卷31第14(古典文学全集) 平安時代12世紀初
今昔、仏ノ道ヲ行ケル僧三人供ナヒテ、四国ノ辺地ト云ハ伊豫・讃岐・阿波・土佐ノ海辺ノ廻也、其ノ僧共「其」ヲ廻ケルニ、思ヒ不懸ズ山ニ踏入ニケリ、

資料3『後白河上皇 梁塵秘抄』卷第二 平安時代12世紀末
我等が修行せし様は、忍辱袈裟をば肩に掛け、又笈を負ひ、衣は何時となく塩垂れて、四国の辺地をぞ常に踏む

資料4『佛名院所司目安案』(醍醐寺文書)鎌倉時代弘安年間(1278-88)
一、不住院主坊事者、修験之習い、両山斗敷、滝山千日、坐巖窟冬籠、四国辺路、三十三所、諸国巡礼遂其芸、

辺地修行から辺路へ 一 弘法大師・一遍の修行地



岩屋寺 (No45)

A place for
religious
training

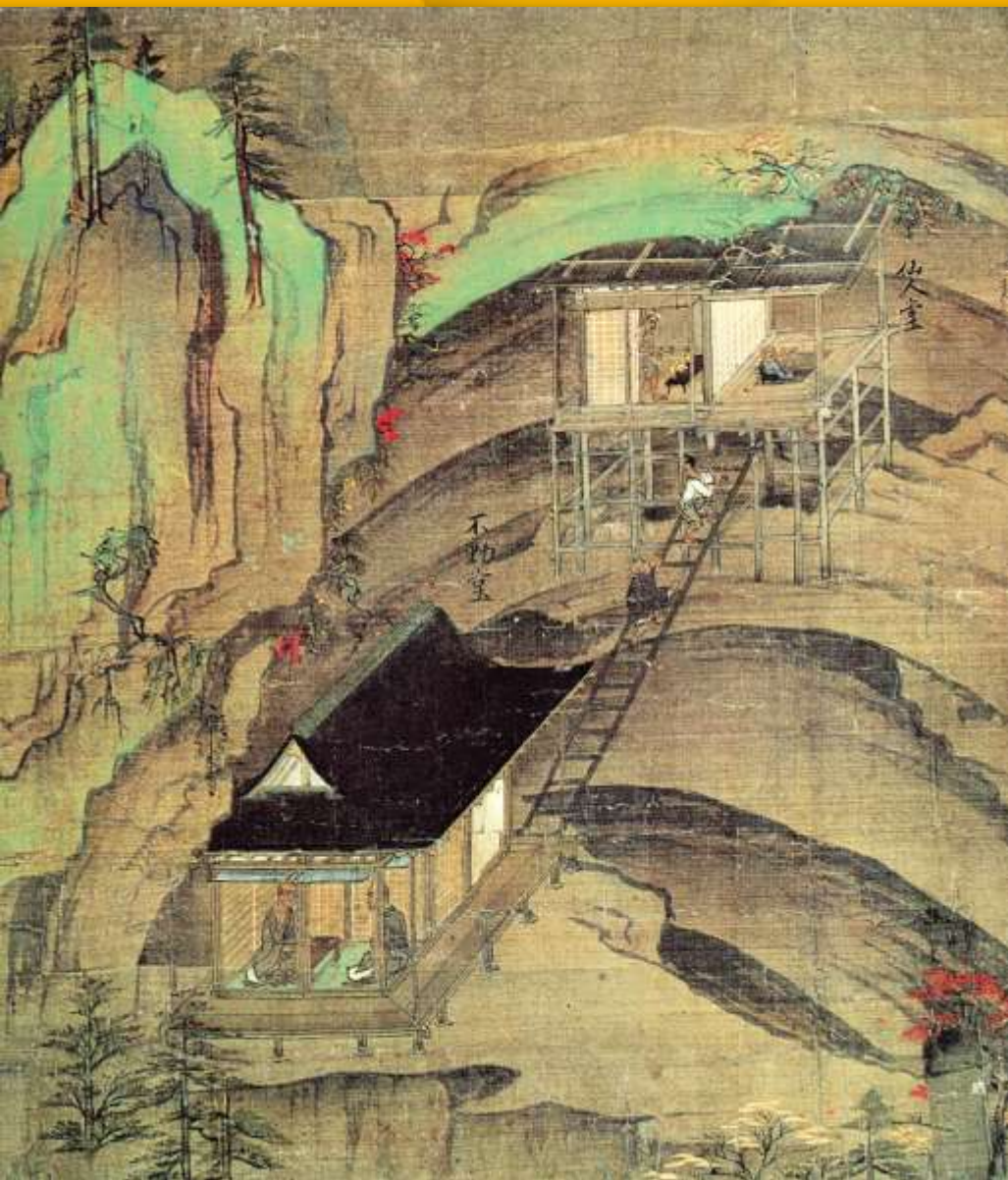


一遍上人(遊行寺)





▲一遍上人絵伝(『日本の絵巻』)



衛門三郎伝説

死と再生の物語 ←

資料5】河野通宣安養寺由緒書板刻(抄)一

室町時代 永祿十年(1567)(石手寺蔵)

一、元明天皇、和銅五壬子(712)載二月甲辰日、白山権現社勧請、伊豫大領散位玉興

一、淳和天皇、天長八辛亥(831)載、浮穴郡江原郷衛門三郎求利欲而富貴破惡逆而佛神故八人男子頓死、自你剃髮捨家順四国辺路、於阿州焼山寺薙及病死一念言望伊豫国司、爰空海和尚一寸八分石切八塚右衛門三郎銘封左手、經年月生国司息利男子継家号息方、件石令置当寺本堂畢

一、宇多院、寛平三辛亥(892)載、創権現宮拜殿新堂、同四壬子載三月三日、奉勸請熊野十二社権現、改安養寺号石手寺、令寄附六十六坊敷并浮穴郡江原郷、願主伊豫息方(愛媛県史)資料編古代・中世)



四国辺路から四国遍路へ 一 八十八ヶ所の誕生



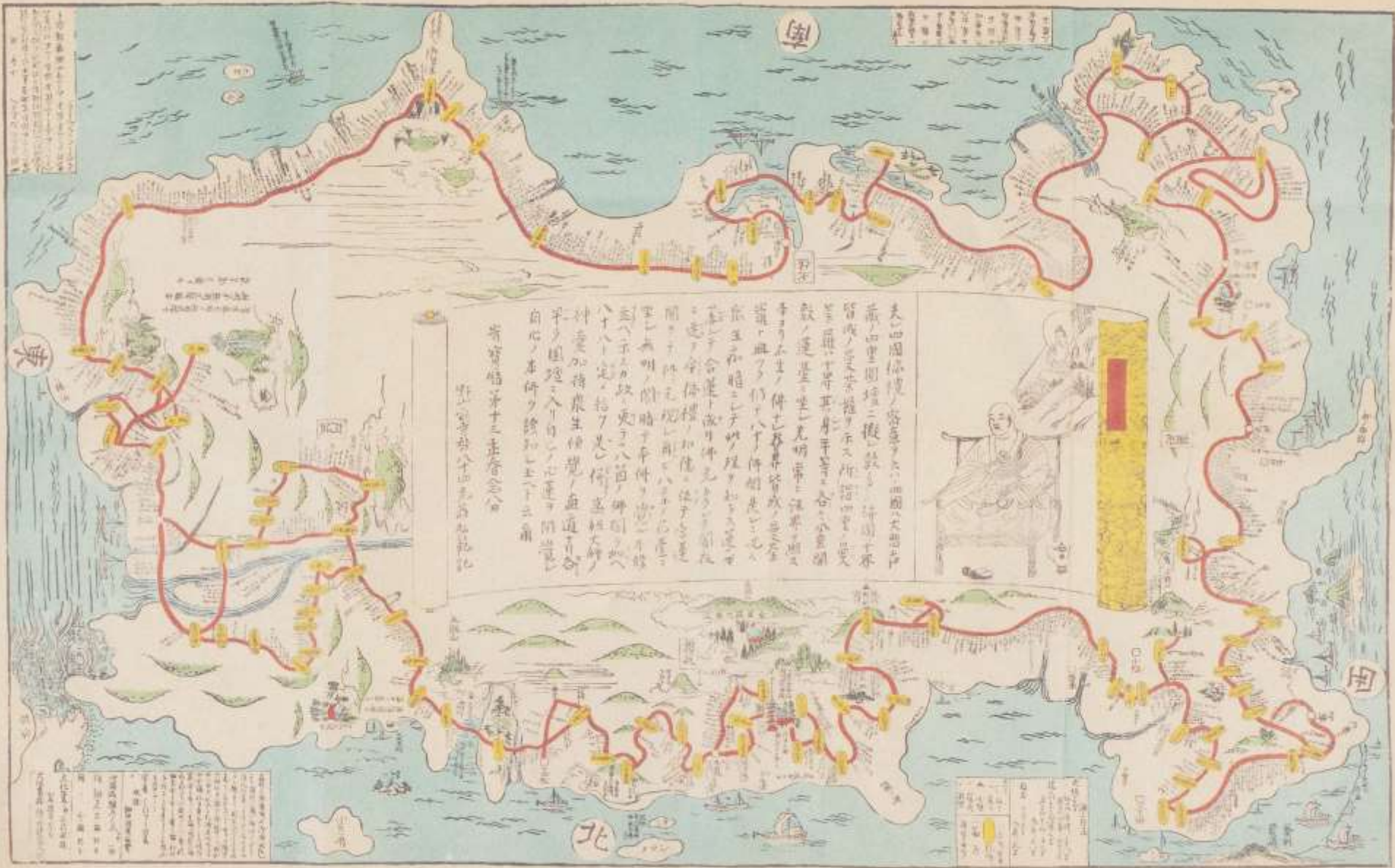
修行から巡礼の旅へ

庶民の文化

資料8】真念「四国辺路道指南」貞享四年(1687)
 巡礼の道すぢに迷惑おほきゆゑに、十方の喜捨をはげまし、標石を建おくなり、東西左右のしるべ并施主の名字彫刻入墨せり、…大師八百五十年忌の春、宿願弥芽し、うひ参の翁、にしひがししらぬ女わらべにたよりせむと筆を手にし、巡礼かず度して一まくりの反故を抱く

資料7】寂本「四国徧礼霊場記」江戸時代 元禄二年(1689)
 八十八番の次第、いづれの世、誰の人の定めあへる、さだかならず、今は其番次によらず、誕生院八大師出生の霊跡にして、徧礼の事も是より起れるかし、故に今は此院を始めとす、

資料6】古浄瑠璃「せつきやうかるかや」江戸時代 寛永八年(1631)
 数は八十八所とこそ聞こえたれ、さてこそ四国へんと八十八か所と八申すなり



夫四國保境ノ密意ヲ以テ四國ノ大志ヲ申
 蕭ノ四里圓錐ニ據リ以テ一 許國ノ事
 皆我ノ受テ密羅ヲ示ス所皆四里ニ見
 三羅ノ事耳耳耳等ニ合ニ小意謂
 數ノ遠星ニ坐ニ光明帝ニ謀事ノ期ニ
 事ヲ不生ノ伴ニ其界皆皆成ノ意ニ至
 密羅ノ事ヲ以テ八十ノ伴相先ニ七
 亦生ノ相ニシテ以テ相ノ如クも是等
 事ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 意ノ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 間ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 事ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 三ノ事ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 八ノ事ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 八ノ事ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合ニ合
 仲意ノ持農生信覺ノ直道ヲ合
 平ノ國地ニ入り自ニ心運ヲ開覺シ
 自心ノ事何ヲ諒知シ上ニ二三前

寄寶帖第十三 赤倉公八

野山寺於中田光清九代記



四国霊場八十八ヶ所について

【資料9】現在の札所の宗派と本尊

【宗派】

- ①真言宗 79寺
- ②天台宗 4寺
- ③臨済宗 2寺
- ④曹洞宗 1寺
- ⑤時宗 1寺
- ⑥真言律宗 1寺

* 明治維新で全て寺院に



龍光寺(№41)

【本尊】

- ①薬師如来系 24寺
 - ②十一面観音菩薩 12寺
 - ③千手観音菩薩 10寺
 - ③阿弥陀如来 10寺
 - ⑤大日如来 6寺
 - ⑤地藏菩薩系 6寺
- ...聖観音菩薩、釈迦如来、不動明王など



善通寺(№75)

大師信仰の広がりー生きた文化

本堂

大師堂



菅笠

白衣

杖

志度寺 (No.86香川県)

四国遍路と世界遺産化運動

【資料10】四国の世界遺産への取り組み

昭和47年(1972)ユネスコ世界遺産条約成立。

昭和50年(1975)文化財保護法改正(無形民俗文化財・伝統的建造物群・選定保存技術、埋文規制)

昭和62～平成3年(1987-91)バブル景気→②自治体史編纂と博物館建設。

平成 4年(1992)日本、世界遺産条約批准(先進国最後、世界125番目)。

平成 5年(1993)法隆寺域・姫路城・屋久島・白神山地、世界遺産初登録。

平成 8年(1996)文化財保護法改正(登録文化財誕生)

平成12年(2000)四国遍路道の世界遺産運動開始(四国経済界)

愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会設立。

世界遺産化の会等ボランティア活動

平成16年(2004)文化財保護法改正(文化的景観)

平成18年(2006)「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産4県共同提案。

平成19年(2007)四国遍路世界遺産登録推進4県協議会設立。提案再提出。

平成22年(2010)「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会設立→産官学民連携。

阿波遍路道史跡指定(徳島県) (20)鶴林寺～(21)太龍寺

平成25年(2013)讃岐遍路道史跡指定(香川県) (81)白峯寺～(82)根香寺

平成26年(2014)四国遍路開創1200年事業 → 調査進展

平成27年(2015)四国遍路が「日本遺産」認定。

愛媛大学「四国遍路・世界の巡礼研究センター」創設

スペイン・ガリシア州と四国4県協力協定

平成28年(2016)「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産4県共同提案

四国遍路と世界遺産化運動

【資料11】日本の世界遺産(文化遺産)

- ①法隆寺地域の仏教建造物(1993)
- ②姫路城(同)
- ③古都京都の文化財(1994)
- ④白川郷・五箇山の合掌造り集落(1995)
- ⑤原爆ドーム(1996)
- ⑥厳島神社(同)
- ⑦古都奈良の文化財(1998)
- ⑧日光の社寺(1999)
- ⑨琉球王国のグスク(2000)
- ⑩紀伊山地の霊場と参詣道(2004)
- ⑪石見銀山遺跡とその文化的景観(2007)
- ⑫平泉(2011)
- ⑬富士山(2013)
- ⑭富岡製糸場と絹産業遺跡群(2014)
- ⑮明治日本の産業革命遺産(2015)
- ⑯国立西洋美術館(2016)
- ⑰宗像・沖ノ島と関連遺跡群(2017)
- ⑱長崎・天草地方の潜伏キリシタン関連資産(2018)
- ⑲百舌鳥・古市古墳群(2019)
- ⑳北海道・北東北の縄文遺跡群(2021)

【資料12】日本の暫定一覧表記載文化遺産…暫定リスト

- ▼ ①**武家の**古都・鎌倉(1992年記載／神奈川県)
- ▼ ②彦根城(同年／滋賀県)
- ▼ ③飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群(2007年／奈良県)
- △ ④金を中心とする佐渡鉱山の遺産群(2010年／新潟県)
- ⑤平泉・拡張(2012年／岩手県)



◎普遍的価値の証明

◎資産の文化財化

四国遍路の文化財化—世界遺産に向けて—

【資料13】【国指定史跡】

阿波遍路道(焼山寺道、一宮道、恩山寺道、立江寺道、
鶴林寺道、鶴林寺、太龍寺道、かも道、太龍寺、いわや道、
平等寺道、平等寺、雲辺寺道、常樂寺、大日寺、地藏寺)

讃岐遍路道(曼荼羅寺道、善通寺、根香寺道、大窪寺道、志度寺)

伊予遍路道(観自在寺道、仏木寺道、龍光寺・稻荷神社、明石寺道、
明石寺、大寶寺道、大寶寺、岩屋寺道、岩屋寺、浄瑠璃寺道、
浄瑠璃寺、八坂寺、浄土寺、横峰寺道、横峰寺、三角寺奥之院道)

土佐遍路道(青龍寺道、竹林寺道、禅師峰寺道、観自在寺道、清瀧寺)

八幡浜街道笠置峠越、讃岐国分寺跡、屋島

【国指定名勝】岩屋寺、星ヶ森、満濃池

【伝統的建造物群】内子の町並み、卯之町の町並み



▲65番三角寺奥之院仙龍寺



▲60番横峰寺奥之院星ヶ森



▲60番横峰寺道

四国遍路の「普遍的価値」の証明—世界遺産に向けて—

サンティアゴ巡礼の巡礼道 CAMINO de santiago





Shikoku

円環型巡礼
 聖跡巡礼
 弘法大師信仰
 1,400km 4ヶ国 → 道場
 八十八の札所



讃岐 = 涅槃

伊予 = 菩提



阿波国 = 発心

土佐国 = 修行

納札 Osame Huda



1~4回 5回~ 8回~ 25回~ 50回~

四国遍路
 The Shikoku Henro

四国遍路の「普遍的価値」—世界遺産に向けて—

お接待と庶民性

円環型巡礼

四国遍路の「普遍的価値」

↓
研究対象

四国文化

大師信仰

病気が人が巡る
飢饉になると増える
セーフティネット機能



KAZE BOOKS 021

四国遍路と世界の巡礼 (上)

—最新研究にふれる八十八話—

愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編

1200年の歴史を有する四国遍路は、今もなお多くの人々を四国へ誘い、地域の人々もお接待で迎える、生きた四国の文化です。センターに集う学内外の多彩な研究者が紡いだ八十八の最新研究によって、四国遍路と世界の巡礼の魅力について紹介します。

四国から世界へ

風ブックス 021
四国遍路と世界の巡礼 (上)
—最新研究にふれる八十八話—
定価 1300円+税

創風社出版
〒791-8068 愛媛県松山市みどりヶ丘 9-8
www.soufusha.jp

【執筆者】

- 胡光 (愛媛大学法文学部教授/センター長) 青木亮人 (愛媛大学教育学部准教授) 井上淳 (愛媛県歴史文化博物館学芸課長)
- 今村賢司 (愛媛県歴史文化博物館専門学芸員) 内田九州男 (愛媛大学名誉教授) 大本敬久 (愛媛県歴史文化博物館専門学芸員)
- 岡本佑弥 (徳島市立徳島城博物館学芸員) 岡本桂典 (高知県立歴史民俗資料館副館長) 神楽岡幼子 (愛媛大学法文学部教授)
- 川岡勉 (愛媛大学名誉教授) 齋藤貴弘 (愛媛大学法文学部教授) 田井静明 (瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員)
- 高橋賢二 (町見郷土館館長兼主任学芸員) 高橋弘臣 (愛媛大学法文学部教授/副センター長) 竹川郁雄 (愛媛大学名誉教授)
- 寺内浩 (愛媛大学名誉教授) 長井健 (愛媛県美術館専門学芸員・担当係長) 中川未来 (愛媛大学法文学部准教授)
- 西耕生 (愛媛大学法文学部教授/副センター長) 野村美紀 (香川県立ミュージアム学芸課長)
- 長谷川賢二 (徳島県立鳥居龍藏記念博物館長兼徳島県立博物館副館長) 松木友和 (徳島県立博物館学芸係長)
- 松原深 (普通寺宝物館学芸員) 御厨義道 (香川県立ミュージアム主任専門学芸員) 山川廣司 (愛媛大学名誉教授)
- 山口由等 (流通経済大学経済学部教授)

【愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター】

2015年4月に法文学部附属センターとして発足。2019年4月には、愛媛大学社会連携推進機構に所属する全学センターとなる。四国遍路の歴史と現代実態を学際的に解明するとともに、世界各地の巡礼との国際比較研究を行っており、その成果は研究紀要や調査報告書の刊行、シンポジウムの開催、愛媛大学ミュージアムでの展示などで公開している。

- *本書の研究は、JSPS科研費17H02386、20H01309の助成を受けたものです。
- *本書の刊行は、愛媛大学基金のうち四国遍路研究基金を活用しています。
- *愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター・ホームページ (<https://henro.ll.ehime-u.ac.jp>)

時を超えて 人を惹きつける 魅力は何か?

「四国遍路」を知る決定版の1冊がここに登場!

四国遍路の世界

愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編

近年ブームとなっている四国遍路。四国八十八ヶ所の成立、遍路日記などの記録、古代から現在に至る歴史の変遷、古典文学での描かれ方、外国人遍路を含めた現在の人気、世界各地の巡礼との比較など、さまざまな視点から読みとく15講。四国遍路はなぜ時を超えて人々を魅了してきたのか? 最新の研究をまとめた入門書がここに刊行!



宇陀八幡神社の四国遍路絵巻(部分、今村賢司蔵)



四国遍路の世界
定価: 880円+税 ISBN: 978-4-480-07309-9
刊行日: 2020年4月25日/著者: 235頁/判型: 単行本

編者プロフィール
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター

2019年4月に「愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター」として発足。2019年4月に現在の名称になる。四国遍路の歴史と現代の実態を学際的に解明するとともに、世界各地の巡礼との国際比較研究を行っており、研究紀要や調査報告書を毎年刊行している。

※この本文・表紙画像は対応の書籍の複製。本誌は許可なく複製・転載を禁じます。

目次

- 第1講 四国八十八ヶ所の成立 川岡 勉
- 第2講 四国遍路と古典文学 西 耕生
- 第3講 江戸時代の遍路日記に見る四国 胡 光
- 第4講 江戸時代の遍路続編 井上 淳
- 第5講 道標石から見た四国遍路 今村賢司
- 第6講 四国遍路と女人禁制 森 正康
- 第7講 四国遍路と明治維新 中川未来
- 第8講 弘法大師空海と四国遍路開創伝承 大本敬久
- 第9講 船経帳・般若心経・白衣 寺内 浩
- 第10講 俳句・文学から見る近現代の四国遍路 青木亮人
- 第11講 四国遍路と外国人 モートン常慈
- 第12講 現代における四国遍路の諸様相 竹川郁雄
- 第13講 アジアの巡礼 高橋弘臣
- 第14講 イスラームの巡礼 安田 慎
- 第15講 ヨーロッパの巡礼 山川廣司